

県庁ワークスタイル変革プロジェクトの推進

課題

- ・今後ますます、人口減少、少子高齢化が進む中、将来的には限られた職員で、今よりも複雑化・多様化する行政課題に向き合うことになる
- ・新型コロナ感染拡大を契機とした社会変化への対応や、生活と仕事を両立できる多様な働き方の実現が求められている

目的

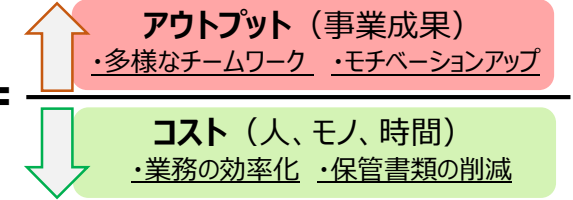
○ **場所や紙にとらわれない働き方（ABW：Activity Based Working）の推進**や**抜本的な業務の再構築**

※ABW：業務内容に合わせて働く場所を自由に選べるワークスタイル

県庁ワークスタイル変革プロジェクトを推進！

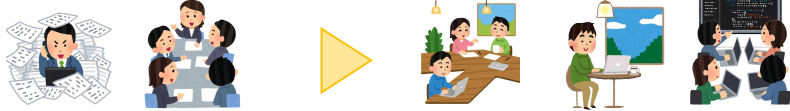
生産性
向上

=



取組 1 場所や紙にとらわれない働き方の推進（職場環境改善）

【働き方の変化】



・職場で業務 ・紙での決裁・会議

・どこでも業務（出張先、自宅、庁内）
・紙なしで業務（電子決裁、ペーパーレス会議）

①全庁で進める環境整備

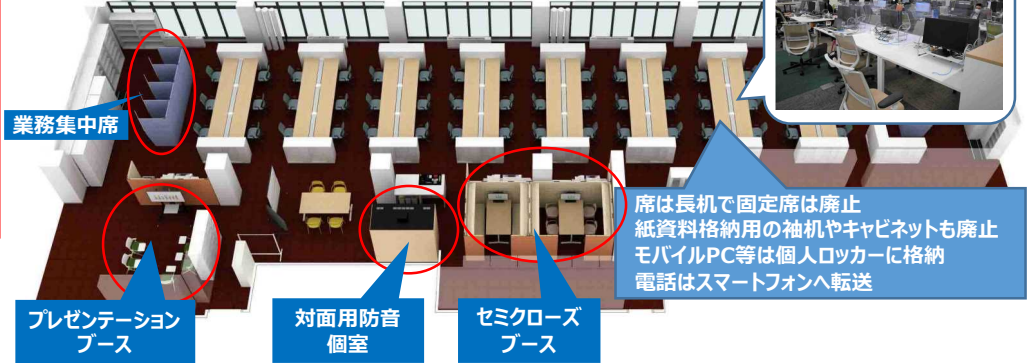
- ・ネットワークの無線LAN化（本課） → 自席外での業務が可能
- ・モバイルPC（小型・無線化）＋ディスプレイの導入（一人1台PCの置き換え）
→ ペーパーレス会議の実施や電子決裁・書類審査を効率化

②モデル職場で進める環境整備

- ・スマートフォンの導入 → 固定電話からの切り替え
- ・スマートオフィスの整備（什器等の刷新） → フリーアドレス、ペーパーレスワークの実施

○ **場所・紙にとらわれない働き方を推進することにより、職員が現場で業務を行うことが可能に**
※試行的取組としてモデル職場（商工労働部3課）で実施

（イメージパース図）



取組 2 抜本的な業務の再構築（業務改善）

①効率的な業務執行に向けたBPR※の推進

- ・業務量調査（現行の業務フローの整理）
- ・BPR手法研修（職員参加型ワークショップ）

※BPR：Business Process Reengineering（業務プロセス全体を見直し、業務を再構築する）

②業務におけるペーパーレス化の徹底

- ・電子決裁の原則化
- ・紙文書のデータ保管等



○ **業務改善によりコア業務に従事できる時間を増加させ、職員が積極的に現場に出ることが可能に**



職場における旗振り役

DX推進員（課長補佐・次長級）の設置

時間外の削減